

平成 20 年度 学校自己評価結果のお知らせ

本年度の重点目標を踏まえて実施いたしました学校自己評価の調査にご協力いただきましてありがとうございました。保護者の皆様からのご回答より、以下のような考察をさせていただきましたのでお知らせいたします。

1 本年度の目標

学校教育目標 「考える子」(知)「やさしい子」(心・徳)「やりぬく子」(意・体)

本年度の重点目標

めざす子どもの姿 自己を思い切り表出する子ども

「大きな声であいさつする子ども」「大きな声で発表する子ども」

[重点方策]: 「豊かな人間関係」「確かな学力」の構築を通して

アプローチのプロジェクト 「豊かな人間関係づくり」 「確かな学力」

「児童会活動との協同」 「地域との連携」

本年度は、めざす子供の姿を「自己を思い切り表出する子」と設定し、四つのプロジェクトを柱に豊かな人間関係や確かな学力を構築することを通して子ども像の具体に迫ろうとしました。

2 学校自己評価保護者アンケートの結果

(1) 実施期日 平成 20 年 1 2 月

(2) 回答率 84%

(3) 実施方法 アンケート用紙に無記名で回答いただく。

(13項目について、ア～エの4段階で評価、感想や意見がある方は記述していただく)

ア: そう思う

イ: だいたいそう思う

ウ: あまりそう思わない

エ: そう思わない

(4) 保護者アンケート結果 (数値単位: %)

	質 問 項 目	ア	イ	ウ	エ
1	学校の様子を、学校だよりや学級通信でよく知らせている。	51.3	41.3	6.3	1.3
2	学校では、わかりやすい授業を工夫している。	36.3	48.8	12.5	2.5
3	学校は子どもをよく理解し、真剣に対応している。	30	53.8	12.5	3.8
4	学校は保護者の心配事に親身になって相談に乗ってくれる。	35	50	12.5	2.5
5	学校は清掃が行き届き、いつもきれいである。	37.5	52.5	10	0
6	学校は季節の花などがあり、潤いのある環境である。	50	48.8	1.3	0
7	学校は危険箇所などへの配慮があり、安全である。	35	58.8	3.8	2.5
8	保護者はPTA活動に関心が高く、協力的である。	21.3	70	7.5	1.3
9	子どもは地域の行事によく参加している。	52.5	45	2.5	0
10	子どもは好ましい友達関係があり、楽しく登校している。	52.5	41.3	6.3	0
11	子どもは明るくはつらつとしたあいさつをする。	18.8	55	26.3	0
12	子どもは意欲的に学習に取り組んでいる。	23.8	65	11.3	0
13	子どもは社会のルール、学校のルールをよく守っている。	23.8	71.3	5	0

3 学校自己評価の考察

- (1) アンケート調査の13項目のすべてで、ア「そう思う」イ「だいたいそう思う」との回答が多く、11「あいさつ」の項目以外は、アとイを併せた回答が85%を超えている。
- (2) 10「良好な友達関係」(ア+イ=93.8%)については、本年度の重点目標に迫るための一つの視点として、安心して自己を表出できるようになるための人間関係づくりを大切にしてきた。異年齢及び異性との人間関係も良好であり、不登校やいじめといった問題も発生せずにいるので、さらに子どもにとって楽しい学校づくりに努めていきたい。
- (3) アとイを併せて、2「わかりやすい授業」が85.1%、3「子どもへの理解」が83.1%、4「保護者への相談対応」が85.0%、12「意欲的な学習」が88.8%と、各80%代となっている。これらは、昨年度よりも低下している項目であり、確かな学力に向けて授業研究会等の研修を通して授業改善に取り組んできたが、保護者の理解が得られなかったと考察できる。わかりやすい授業と共に子どもの意欲を高める授業に向けて努力するとともに、学校の取り組みへの理解が得られるように地域や保護者との連携を深め開かれた学校にしていきたい。学力にかかわっては、各ご家庭におかれても家庭の教育力として「家庭学習を行う力」を高めていただくことをお願いしたい。
- (4) 11「あいさつ」については、昨年度と比べてかなり低い評価結果であった。本年度の重点目標の具体的姿に設定して取り組んできたが、地域に出たときの子供の姿として具現されていなかったと判断できる。また、地域や保護者の皆様の本校児童のあいさつについての関心の高まりの結果とも推察できる。自己表出の一つとして、大きな声で挨拶ができる子どもを育てることへ向け、児童会活動と併せて取り組んでいきたい。また、地域でのあいさつについては学校だけの取り組みでは高まりが少ないと思われるので、家庭や地域の皆様の声かけなど積極的ななかかわりもお願いしたい。

4 学校評議員会より

2月18日(水)学校評議員の皆様にご来校いただき、授業参観を行い子どもの様子を見ていただいたり、学校自己評価の結果について外部評価をいただいたりしました。学校評議員の方々からいただきました主な意見をご紹介します。

(1) 学校自己評価から

学校自己評価の保護者アンケートのパーセントも高い評価を得ていて、学校としてよくやってくれている。

あいさつの評価が低いとのことだが、あいさつをよくしてくれて気持ちがいい。

子どもは大人の背中を見ている。大人自身が挨拶をしたり、大人同士でも挨拶をしあったりしているのだろうか。子どもはそれを見ているので、子どもに言う前に大人が挨拶をしたい。

(2) 授業参観を通して

授業を見させていただき、西小はそんなに劣っているとは感じない。みんな生き生きとやっていたよかったです。

先生が教え込むのではなく、子どもが主体的に学ぶ意欲を大切にした授業をどのクラスも行ってきていた。自分たちで考え合い教え合って学習していた。

学習塾へ行っている子どもが少なく、社会体育を行なっている児童が多い。なおさら、学校での授業の充実や家庭での学習習慣の確立が大切になってくる。塾ではなく学校ならではの、集団として高め合う学習、友と学び合う学習が大切になってくる。

総括：平成20年度の学校の取り組みへの評価として保護者の皆様の声を真摯に受け止め、次年度に向けて課題を改善していく必要がある。また、子どもの教育は学校教育のみでは限界があるので、家庭や地域との連携をさらに深め、「地域とともにある学校」をめざして、学校づくりや児童の健やかな育成に今後ともご支援いただきますようお願いいたします。

